

知床世界自然遺産地域の保全状況に関する調査報告書(仮訳)

謝辞

調査団は、親切な招待と、調査期間中のもてなしと支援に関して、日本政府、特に環境省に感謝する。調査の始まりに環境大臣が調査団に会っていただいたことに感謝する。地域行政機関、特に斜里と羅臼の両町町長とそのスタッフの温かい歓迎を感謝する。また、地域の利害関係者に会う機会を得たことに感謝する。そこには、漁業の管理、観光の管理、知床世界遺産地域に関係したその他の活動が含まれる。

1 背景

(1)

知床は、2005年世界遺産委員会において自然遺産のクライテリア (ix) と (x) により世界遺産一覧表に記載された。2005年世界遺産委員会の決議は別添Aの通りである。世界遺産委員会において、知床はクライテリア (ix) に関して、海域と陸域の生態系の相互作用の顕著な見本であるとともに、主に北半球で最も低緯度における季節海氷の形成の影響による類い希な生産性をもつ生態系であるとされた。またクライテリア (x) については、知床は多くのサケ科魚類やトドやクジラ目を含む多くの海棲ほ乳類の種にとって世界的に重要な地域であるとともに、数々の海域及び陸域の生物にとってとりわけ重要な地域であるとされた。この地域は、世界的に絶滅に瀕した海鳥の生息地として重要であるとともに、渡り鳥にとっても世界的に重要な地域である。2005年世界遺産委員会において課題とされた事項としては、(a) 海域管理計画の策定を急ぐこと、(b) サケ科魚類管理計画を策定すること、(c) その他 IUCN 技術評価書に記載した管理課題に取り組むこと、の必要性などが示されている。

(2)

この報告書は 2005 年世界遺産委員会の決議において課題とされた事項に直接に対応したものである。調査団はユネスコ世界遺産センター次長のキショール・ラオと IUCN 保護地域プログラム長のデイビッド・シェパードの両名で構成され、2008 年 2 月 18 日から 22 日に現地調査が行われた。調査行程の詳細は別添 B の通りである。

2 遺産地域の管理のための国家的枠組み

(3)

知床世界遺産は、自然環境保全法 (1972 年)、自然公園法 (1957 年)、国有林野の管理経営に関する法律 (1951 年)、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (1992 年) を含む多くの国内法及び制度によって保護されている。加えて、遺産地域の海域部分に関しては漁業や海洋汚染のような事項を対象とする他の法律があり、それらもまた遺産地域の効果的な管理に関連する。国立公園の包括的な管理システムが、遺産地域の多様な管理目標の統合化とコアとバッファーズーンの管理の調整を確実にしている。これらの法律と行政システムが遺産地域の保護の効果的な母体となっている。現在、遺産地域において海域の管理やサケ科魚類の管理などの課題に関連した多くの計画が策定中又は策定済みであり、これらの概要は以下に記す通りである。調査団は、これらの計画を可及的速やかにひとつの包括的な遺産地域管理計画に統合することを提言する。

3 物件の保全状況における課題／脅威についての確認(特定)と評価

3.1 海洋資源の管理

(4)

IUCN 技術評価書(2005)では遺産地域及び隣接地域において様々な漁業が営まれている点に注目し、推薦地域及び推薦地域と生態学的・機能的に関連する隣接地域において、重要な魚種の主要な繁殖・産卵・生育場での漁業に対してより厳しい制限が必要であると具体的に指摘している。

(5)

締約国(日本)は水産分野からの要求と海洋保全の必要性とのバランスを保つことが重要と認識し、それを達成するために数々の戦略を定めてきている。特筆すべきは、締約国は2005年の世界遺産委員会の遺産地域における海域の境界を沿岸1 kmから3 kmに拡張すべきという要請に積極的に同意し、海洋保護の強化のための方策及び遺産地域の子海域部分の境界の拡張の可能性を明確にするための海域管理計画を策定することについても同意した。

(6)

調査団は多利用型統合的の海域管理計画を精査し、その主な目的は海洋生態系の保全と将来にわたっての人間活動による遺産地域の適正な利用を確保することであると認識した。海域管理計画に概説されている主な方針には以下が含まれている：(a)海洋環境の保全に関連した法規制 (b)漁業者による自主的管理 (c)海洋レクリエーションに関する自主的規制 (d)海洋資源のモニタリング。計画は順応的管理の原則に基づいている。

勧告1

さらなる保護の層を加える観点から、国際海事機関(IMO)と共に、遺産地域の海域について、特別敏感海域(PSSA)の指定について検討すること。

(7)

調査団は海洋資源の管理のためのよい枠組みが海域管理計画に示されていること、そして重要なことであるが、計画が地域の参画と最新の科学を強固な基盤として成り立っていることを指摘する。しかしながら調査団はさらに詳細で綿密なものがこのような計画には含まれる必要があると感じる。すなわち、特に優先順位、責任分担、スケジュールの明確化に関連した事項が必要である。また、調査団はこの計画を現在策定されている他の計画と統合させ、遺産の一つの統合的管理計画とする必要性を指摘する。

勧告2

管理計画は、海域管理計画に含まれているように、目的と管理戦略についてのみ概説するのではなく、活動内容、成果、客観的に検証することのできる指標を明確にした行動につながるものにすべきである。また、計画は様々な実行機関が分担する責任と役割を明確に示すとともに、計画実行のための時間枠を詳細に示すべきである。

勧告3

遺産の管理計画を見直し、包括的な遺産管理計画として完成させること。その中には、多利用型海域管理計画を含むその他の個別の計画を全て統合すべきである。この管理計画にはさらに、サケ科魚類、エゾシカ、スケトウダラ、トド、オオワシなどの指標種の管理など、全ての鍵となる管理事項とエコツアーリズムについて記述されるべきである。

(8)

海域管理計画にスケトウダラやトドのような主要な指標種の保全のための明確な目標と指標が含まれていることもまた重要である。計画にはまた、魚類の長期的な保護を保障する多くの方策が含まれるべきである。そうした方策には禁漁区の明確化や漁場保全を強化するための管理を整えることが含まれる。こうした方策を成功させる可能性を最大化させ、また明確にした方策が地元漁業者の知識と経験を生かし、それらから得られたものであることを確実にするため、地域の漁業者と協議をしつつ、こうした方策を明確化していく現在のやり方を継続することが重要である。

勧告 4

漁業資源の持続的な生産も含む、海洋の生物多様性の持続的な生産力を確保するための、海洋の生息地の範囲内での禁漁区を含めた地域に即した保全地域の特定や指定、取組を検討すること。

(9)

主要な海洋の指標種の管理に関連して、調査団は漁業資源が遺産地域外で起こっている活動、特により広範囲のオホーツク海での漁業活動により影響を受けていることを指摘する。このことは魚種資源にも反映されている。例えば、スケトウダラの数には遺産地域内では何年もの間一定であるが、オホーツク海では一般に減少してきている。スケトウダラのような減少する資源の問題に取り組むためには、遺産地域の境界を越えた取組が必要であり、(日本の)関係当局及びロシアの水産部局の代表者との対話と協議が必要なことは明らかである。

勧告 5

資源利用の問題、特にスケトウダラの持続可能でない漁獲について、長期的な解決策を見つけるためと、科学的情報の定期的な交換のため、ロシア連邦との間で始められた協力を継続すること。

(10)

調査団はトドが IUCN レッドリスト掲載の絶滅危惧種であり、その存在は世界遺産の顕著で普遍的な価値 (OUV) の重要な要素となっていることを指摘する。調査団はトドによる漁網への被害に係る地域の漁業者との軋轢が存在していることについても注目する。トドが絶滅のおそれのある種であることから、調査団は本種の分布域での保護のために最大限の努力が払われるべきと考える。このことはトドと漁業者の軋轢を避けあるいは最小化するためのあらゆる努力が払われるべきことを意味する。これにはトドを追い払うための爆発物や強化網の使用といった手法も含まれ得る。トドの消費的な利用は推奨されるべきものではない。

勧告 6

遺産地域内の持続的な保全のための適切な管理措置の実施と、遺産地域の海域の外側におけ

る関係する団体との協力的な措置によって、2つの指標種（スケトウダラとトド）の個体数の減少傾向という問題に取り組むこと。

(11)

まとめとして、調査団は遺産地域の魚類の保護のための努力の継続と推進を支持し、その努力には様々な方策の組み合わせが伴うものであらうと認識する。こうした方策が地元漁業者との協力のもとに作られ、最新の科学に基づいた助言がなされることが重要である。

3.2 遺産地域内のサケ科魚類と河川工作物の管理

(12)

2005年世界遺産委員会は、締約国に対し、サケ科魚類管理計画を策定し河川工作物の影響を明らかにするとともに、サケ科魚類への影響への対策の戦略を明らかにするよう要請した。これは、推薦地域がシロザケ、カラフトマス、サクラマス、オシヨロコマを含むサケ科魚類にとって重要な価値を有するとして2005年IUCN技術評価書の内容を反映したものである。これらのサケ科魚類は、冬季に河川を遡上するサケを餌とするオオワシ、オジロワシなど、遺産地域における多くの貴重種の食料源として重要な存在である。それゆえ、推薦地内のサケ科魚類の自由な移動を確保することは推薦物件全体の管理の重要な要素であり、この地域の顕著で普遍的な価値の構成要素となっている。サケ科魚類の遡上個体数を増加させるような（すなわち、より多くの魚が沿岸漁業から逃れ河川に遡上し産卵できるような）サケ科魚類管理方針の適用も重要であると調査団は指摘する。

(13)

知床世界遺産地域の中には44河川があり、このうち14河川には浸食防止ダム、コンクリート水路やボックスカルバートのような人工構造物が存在する。河川内のダムや関連工作物は、洪水や甚大な気象災害が、羅臼川下流の羅臼町やイワウベツ川下流の橋梁などの人々や施設に被害を及ぼすのを緩和するために設置されたものである。これらの工作物はサケ科魚類の自由な移動にも障壁をもたらすものであり、2005年IUCN技術評価書において、いくつかの河川工作物の撤去や魚道など他の手法により遺産地域内のサケ科魚類の自由な移動を促進する代替措置を検討することを提言した。

(14)

締約国は、2005年以降に河川工作物について検討を行う河川工作物ワーキンググループを設置し、13基について「優先的に改良を検討することが望ましい」と特定した。その後、ワーキンググループは改良構造物案を作成し、遺産地域内河川の7基（ルシャ川2基、イワウベツ川3基、サシルイ川2基）の改良が着手された。

(15)

調査団は、遺産地域内の河川工作物の改良に関して、2005年世界遺産委員会からのリクエストに応える対策がとられていることに感謝の意をもって注目する。調査においてイワウベツ川のダムが改良されサケ科魚類の移動に良好な影響をもたらしている現場を視察することができた。工作物の改良は時間も資金もかかることと、そのような実施計画には長期的な観点が求められることに調査団は注目する。それゆえ、遺産地域のサケ科魚類管理計画には短期的目標と長期的目標の両方を設定することが重要である。

勧告 7

遺産地域内におけるサケの自由な移動を推進する対策を継続・推進させるとともに、サケの遡上個体数を増加させること。

(16)

サケ科魚類の自由な移動は遺産地域の顕著な普遍的価値の重要な要素であり、遺産地域の包括的管理計画の不可欠な要素となるべきものである。また、遺産地域内のサケ科魚類の保全にとって最も重要な河川であるとサケ科魚類専門家により特定されているルシャ川のように、サケ科魚類にとっていくつかの河川が特に重要であることにも調査団は注目する。

勧告 8

遺産地域内のサケ科魚類にとっての重要性に鑑み、モニタリングを進めつつ長期的視野の基に、ルシャ川の河川工作物の改良について、優先的に配慮すること。

(17)

遺産地域内において河川工作物の改良がサケの個体数にどう影響するかを厳密かつ長期的にモニタリングすることの重要性に調査団は注目する。現在、サケ科魚類の遡上と産卵環境の改善に対する河川工作物改良の影響を評価するプログラムが整っていることに調査団は注目する。これは、サケ科魚類の上流への移動個体数や河川の流速や流量などに関する一連の項目に基づいたものである。モニタリングは今後のサケ科魚類管理戦略を導く鍵として活用すべきである。

勧告 9

河川工作物の改良が、遺産地域内外のサケの個体群の移動に及ぼす影響に特に注意を払いながら、遺産地域内のモニタリング活動を継続・推進させること。

3.3 エゾシカの管理

(18)

知床ではエゾシカは数が多く目立つ種であること、シカの個体数が大きな変動を経てきたことを 2005 年の技術評価書は指摘している。遺産地域内の高密度のシカは、過食によって自然植生に影響を与えており、抑制措置が明らかに必要である。シカの影響は自然のプロセスの一部なのか、長期間に渡って人間がもたらした生態系の変化によるものなのかを巡って議論が行われている。

勧告 10

遺産地域内の自然植生に対するエゾシカによる食害が、許容可能なものか許容できないものの限界点を明らかにすることが出来るような明確な指標を開発すべきである。

(19)

シカの管理は 2 つの鍵となる文書に沿って進められている。(a)北海道エゾシカ保護管理計画と (b)知床半島エゾシカ管理計画である。北海道におけるシカの計画は、農林業に対する食害を減らして、個体数レベルを維持することを目的としている。知床半島のシカの計画は、遺産地域

の生物多様性と生態系を全体として損なわない範囲内で、シカの個体群を保護することを目的としている。この管理計画は実行計画とも連携しており、実行計画には知床半島先端部での密度操作実験（駆除）が含まれている。

勧告 1 1

知床半島エゾシカ管理計画と関連する実行計画の実施を継続すべきであるが、抑制措置が、遺産地域のエゾシカの個体群、生物多様性、生態系に及ぼす影響を注意深く観察すべきである。

(20)

調査団は、知床半島におけるシカ管理計画の進捗について概観し、遺産地域内のシカについて適度な個体数密度を定めるための取組を確認した。遺産地域内の核心地域における種の管理は、可能な限り、人の関与無しで起こる自然のプロセスを許容することを基本とすべきであると調査団は考える。しかしながら、シカの食害が遺産地域の生物多様性や生態系に受容できない影響を与えているときには、シカの個体群の調整は行うべきであるとも考える。自然の推移に委ね、介入を行わなければ、遺産地域の植生に対し、シカが不可逆的な悪い影響を与える可能性がある。鍵となる挑戦は、シカの影響が、許容可能なものか許容できないものかの限界点を明らかにすることと、実行された調整対策の影響の効果的なモニタリングを確実に行うことである。

勧告 1 2

知床世界遺産地域内のエゾシカの管理と、北海道全体のエゾシカ管理とを注意深く調整すること。

勧告 1 3

遺産地域内における、エゾシカ個体群の抑制措置（個体数調整）については、全て、注意深く、人道的な点から、また、慎重に実施されること。

3.4 エコツアーリズムの管理

(21)

観光は推薦物件で重要性が増している課題である。夏は観光利用のハイシーズンであるが、冬においても観光客数が増加し、それは特に海水を見るためである。登録直後に観光客数が顕著に増加したのは、日本国内のメディアの注目や関心が増加したことを反映している。

勧告 1 4

遺産地域に関する、統合的なエコツアーリズム戦略を出来る限り早急に策定すること。この戦略は、遺産地域の自然価値の保護、観光客の自然に基づく良質な体験の促進、地域経済の発展の促進を基本とすべき。

(22)

登録以来、全般に観光計画と「適正な利用」に関する計画の重要性が増している。「適正な利用」は、「知床国立公園知床半島先端部地区利用適正化基本計画」に沿って進められてきた。この計画には、海鳥の個体数に与える影響を最小限にするための船舶の規制、登山道の維持・管理な

どの課題に関して、適切な利用と政策が定められている。調査団は、「適正な利用」とエコツーリズムに対する現在のアプローチを基とし、継続することが重要であると指摘する。

勧告 1 5

”適正な利用”と”エコツーリズム”に関連した現在の活動を継続するとともに、統合的な方法でこれらの事項に取り組むことを確保するため、包括的な一つのワーキンググループのもとに統合すること。

(2 3)

遺産地域内でエコツーリズムは特に重要視されてきており、これは環境省、北海道、斜里町、羅臼町によって共同で支援されている「知床エコツーリズム推進事業」に導かれている。この事業の目的には、知床の自然特性に基づいた適切なエコツーリズム開発、地域経済の発展と多様化を支援するための手段としてエコツーリズムの利用が含まれている。特に、羅臼においては経済を多様化させる要素として観光業の奨励に重点がおかれ、斜里においては、観光客の長期滞在の促進や、より幅の広い自然体験の提供による「より深い体験」に重点がおかれてきている。

(2 4)

遺産地域の自然の価値に敏感でそれを保護するような地域のエコツーリズム産業の発展に重点が置かれている。活動は5つの特定の分野で実施されている。(1)知床世界遺産に特化したエコツーリズムガイドラインの開発、(2)漁業や農業のような地域産業と連携による、遺産地域の近辺（隣接地域）での「参加型」旅行プログラムの開発、(3)旅行代理店との協働や、多様な活動と利用機会に関する情報の提供による、長期滞在の奨励、(4)自然ガイドの技術や知識を向上させるための、ツアーガイドのトレーニング、(5)実用的なエコツーリズム調査の実施

(2 5)

知床遺産地域内と隣接地域において、慎重で適切なエコツーリズムの発展を調査団は推奨する。そのようなエコツーリズムが地域経済発展の多様化と強化に寄与する可能性があるとして調査団は考える。そのような発展の基礎となるのは自然特性と価値の維持であり、それゆえに、そのような価値は守られ強化されなければならない。

勧告 1 6

知床のエコツーリズム戦略と、知床内の観光と経済的開発の地域戦略との間に密接に連携・統合を確保すること。

3.5 気候変動

(2 6)

知床の顕著で普遍的な価値 OUV (Outstanding Universal Value) は北半球で最も低緯度の海氷の存在に強く関連する。これは、海洋生態系の生産性に影響し、それが陸域の生態系の生産性と多様性にも影響している。気候変動の長期的なインパクトは本物件に重大な影響力を持ち得る。

(2 7)

知床のための気候変動の戦略が開発されることが重要である。それには、次の事項が含まれるだろう。

(a)長期的及び短期的な気候変動の影響の強さを確認するモニタリングプログラムと、海氷の範囲や指標種の個体数への影響などの具体的なモニタリング指標の開発; (b)知床世界遺産の価値に対する気候変動の影響を最小とするように適用することができるかもしれない順応的管理戦略。保護地域と世界自然遺産地域に関連して、気候変動に関する経験と知識の集積があるので、これから得られた情報を活用し、知床に関する気候変動戦略の開発を推進すべきであることを調査団は指摘する。

勧告 17

(a)モニタリング計画の開発と、(b)知床世界遺産の価値に対する気候変動の影響を最小にとどめるための順応的戦略とを含んだ知床の「気候変動戦略」を開発すること。

4 遺産の保全状態の評価

(28)

調査団は、知床世界遺産の保護について、特に 2005 年の世界遺産委員会と IUCN(国際自然保護連合)技術評価書からの勧告に対し、日本は良好な進捗を遂げている旨確認した。調査団は、特に(知床遺産の)全てのレベルの関係者が遺産の顕著で普遍的な価値を確実に維持し、次の世代へとそのままの形で引き継ごうとする強い責任感に感銘を受けた。これは、北海道知事、斜里町長、羅臼町長が 2005 年 10 月に署名した「世界の宝、しれとこ宣言」によくあらわれている(別添 C 参照)。また、調査団は、地域コミュニティや関係者の参画を通じたボトムアップアプローチによる管理、科学委員会や個々の(具体的目的に沿った)ワーキンググループの設置を通して、科学的知識を遺産管理に効果的に応用していることを賞賛する。これらは、他の世界自然遺産地域の管理のための素晴らしいモデルを提示している。

(29)

全体として調査団は保全の状態は満足できるものと結論づける。解決を要する問題としては、特に海洋の管理とサケ科魚類の管理に関してであるが、これについては締約国が非常に建設的かつ効果的な方法で取組を進めている。これらの努力を継続し、推進させることが大切である。長期的な気候変動の影響は明確ではないが、本遺産には多大な影響がある可能性がある。この問題を注意深く観察していくこと、将来の気候変動による影響を最小限にするための戦略を作ることが重要である。

5 勧告のまとめ

調査団からの勧告は次のとおり

勧告 1

さらなる保護の層を加える観点から、国際海事機関(IMO)と共に、遺産地域の海域について、特別敏感海域(PSSA)の指定について検討すること。

勧告 2

管理計画は、海域管理計画に含まれているように、目的と管理戦略についてのみ概説するのではなく、活動内容、成果、客観的に検証することのできる指標を明確にした行動につながるものにすべきである。また、計画は様々な実行機関が分担する責任と役割を明確に示すとともに、計画実行のための時間枠を詳細に示すべきである。

勧告 3

遺産の管理計画を見直し、包括的な遺産管理計画として完成させること。その中には、多利用型海域管理計画を含むその他の個別の計画を全て統合すべきである。この管理計画にはさらに、サケ科魚類、エゾシカ、スケトウダラ、トド、オオワシなどの指標種の管理など、全ての鍵となる管理事項とエコツアーリズムについて記述されるべきである。

勧告 4

漁業資源の持続的な生産も含む、海洋の生物多様性の持続的な生産力を確保するための、海洋の生息地の範囲内での禁漁区を含めた地域に即した保全地域の特定や指定、取組を検討すること。

勧告 5

資源利用の問題、特にスケトウダラの持続可能でない漁獲について、長期的な解決策を見つけるためと、科学的情報の定期的な交換のため、ロシア連邦との間で始められた協力を継続すること。

勧告 6

遺産地域内の持続的な保全のための適切な管理措置の実施と、遺産地域の海域の外側における関係する団体との協力的な措置によって、2つの指標種（スケトウダラとトド）の個体数の減少傾向という問題に取り組むこと。

勧告 7

遺産地域内におけるサケの自由な移動を推進する対策を継続・推進させるとともに、サケの遡上個体数を増加させること。

勧告 8

遺産地域内のサケ科魚類にとっての重要性に鑑み、モニタリングを進めつつ長期的視野の基に、ルシヤ川の河川工作物の改良について、優先的に配慮すること。

勧告 9

河川工作物の改良が、遺産地域内外のサケの個体群の移動に及ぼす影響に特に注意を払いな

がら、遺産地域内のモニタリング活動を継続・推進させること。

勧告 1 0

遺産地域内の自然植生に対するエゾシカによる食害が、許容可能なものか許容できないものかの限界点を明らかにすることが出来るような明確な指標を開発すべきである。

勧告 1 1

知床半島エゾシカ管理計画と関連する実行計画の実施を継続すべきであるが、抑制措置が、遺産地域のエゾシカの個体群、生物多様性、生態系に及ぼす影響を注意深く観察すべきである。

勧告 1 2

知床世界遺産地域内のエゾシカの管理と、北海道全体のエゾシカ管理とを注意深く調整すること。

勧告 1 3

遺産地域内における、エゾシカ個体群の抑制措置（個体数調整）については、全て、注意深く、人道的な点から、また、慎重に実施されること。

勧告 1 4

遺産地域に関する、統合的なエコツーリズム戦略を出来る限り早急に策定すること。この戦略は、遺産地域の自然価値の保護、観光客の自然に基づく良質な体験の促進、地域経済の発展の促進を基本とすべき。

勧告 1 5

”適正な利用”と”エコツーリズム”に関連した現在の活動を継続するとともに、統合的な方法でこれらの事項に取り組むことを確保するため、包括的な一つのワーキンググループのもとに統合すること。

勧告 1 6

知床のエコツーリズム戦略と、知床内の観光と経済的開発の地域戦略との間に密接に連携・統合を確保すること。

勧告 1 7

(a)モニタリング計画の開発と、(b)知床世界遺産の価値に対する気候変動の影響を最小限にとどめるための順応的管理戦略とを含んだ知床の「気候変動戦略」を開発すること。

March 2008
Shiretoko Natural World Heritage Site, Japan

Report of the reactive monitoring mission
18-22 February 2008



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



World Heritage Convention

TABLE OF CONTENTS

Acknowledgements	1
1. Background	2
2. National framework for management of the property	3
3. Key Issues	4
3.1 Management of marine resources	4
3.2 Management of salmonids and dam construction within the property.....	5
3.3 Management of Sika Deer	6
3.4 Management of ecotourism	7
3.5 Climate change.....	8
4. Assessment of the State of Conservation of the property	9
5. Summary of recommendations.....	10
Annex A - Decision of the 2005 WH Committee in relation to Shiretoko National Park	12
Annex B - Agenda for the 2008 Mission and people met during the mission	13
Annex C - Shiretoko World Treasure Declaration signed by the Governor of Hokkaido and the Mayors of Shari and Rausu, in October 2005	15
Annex D – Photographs	16

ACKNOWLEDGEMENTS

The Mission Team would like to thank the Government of Japan and in particular the Ministry of the Environment for its kind invitation, hospitality and assistance throughout the duration of the mission. It is grateful to the Minister of the Environment for meeting with the mission team at the start of the mission. The Mission appreciated the warm welcome from local government officials, in particular the Mayors of Shari and Rausu Councils and their staff. The Mission also appreciated the opportunity to meet with local stakeholders involved in fisheries management, tourism management and other activities relating to the Shiretoko World Heritage Site.

1. BACKGROUND

- (1) The Shiretoko World Heritage site was inscribed on the World Heritage (WH) List under natural criteria (ix) and (x) at the 2005 WH Committee Session. The decision from the 2005 WH Committee is attached as Annex A. In relation to criterion (ix), the Committee noted that Shiretoko provides an outstanding example of the interaction of marine and terrestrial ecosystems as well as extraordinary ecosystem productivity, largely influenced by the formation of seasonal sea ice at the lowest latitude in the northern hemisphere. In relation to criterion (x) the Committee noted that Shiretoko has particular importance for a number of marine and terrestrial species as well as being globally important for a number of salmonid species and for a number of marine mammals, including the Steller's Sea Lion and a number of cetacean species. The site has significance as a habitat for globally threatened sea birds and is a globally important area for migratory birds. Issues raised by the 2005 WH Committee included the need to: a) expedite development of a marine management plan; (b) develop a salmonid management plan; and (c) address other management issues included in the IUCN evaluation report.

- (2) This report responds directly to the issues raised in the 2005 World Heritage Committee decision. The Mission Team comprised Kishore Rao, Deputy Director of the UNESCO World Heritage Centre, and David Sheppard, Head of the IUCN Programme on Protected Areas. The mission was undertaken from 18 to 22 February, 2008; the detailed schedule is attached as Annex B.

2. NATIONAL FRAMEWORK FOR THE MANAGEMENT OF THE PROPERTY

- (3) The Shiretoko World Heritage site is protected through a number of national laws and regulations, including the Nature Conservation Law (1972), the Natural Parks Law (1957), the Law on Administration and Management of National Forests (1951) and the Law for Conservation of Endangered Species of Wild Fauna and Flora (1992). In addition there are other laws pertaining to the marine part of the property, covering issues such as fishing and marine pollution, and these are also relevant for the effective management of the property. A comprehensive administrative system for the park ensures integration of the various management objectives for the property and ensures coordinated management for the core and buffer zones. These laws and administrative systems provide an effective matrix of protection for the property. There are currently a number of plans developed or being developed for the property in relation to issues such as marine management and salmonid management and these are outlined below. The Mission Team recommends that these be combined into one integrated management plan for the property as quickly as possible.

3. IDENTIFICATION AND ASSESSMENT OF ISSUES / THREATS TO THE STATE OF CONSERVATION OF THE PROPERTY

3.1 Management of marine resources

- (4) The IUCN Evaluation Report (2005) noted that a broad range of fishing activities occur within and adjacent to the property and specifically noted the need for stricter controls on fishing within the key breeding, spawning and nursery sites for important fish species within the nominated property and in adjacent areas as far as they are functionally related ecologically to the nominated property.
- (5) The State Party has noted the importance of maintaining a balance between the requirements of the fisheries sector and the need for marine conservation, and has established a number of strategies to achieve this. In particular, and positively, the State Party agreed with the request of the 2005 World Heritage Committee to extend the marine boundary of the property from 1 km to 3 km off the coastline and also agreed to develop a marine management plan to clearly identify measures for strengthening marine protection and the possibilities of extending the boundaries of the marine component of the property.
- (6) The Mission reviewed the Multiple Use Integrated Marine Management Plan and noted that its main aim is to ensure the conservation of the marine ecosystem and the proper use of the area for human activities in the future. The main policies outlined in the Marine Management Plan involve: (a) legal restrictions relating to the conservation of the marine environment; (b) autonomous management measures carried out by fishers; (c) voluntary restrictions on marine recreation; and (d) monitoring of marine resources. The Plan is based on the principle of adaptive management.

Recommendation 1

Explore with the International Maritime Organisation (IMO) the obtaining of the Particularly Sensitive Sea Areas (PSSA) designation for the marine component of the property, with a view to giving it an added layer of protection.

- (7) The Mission noted the Marine Management Plan provides a good framework for management of marine resources and, importantly, builds on a solid base of local involvement and the best science currently available. However, the Mission Team feels that further detail and elaboration is required in a plan such as this, particularly in relation to the identification of priorities, responsibilities and time lines. The Mission Team also notes the need to combine this plan with the other plans currently being developed, to ensure one integrated Management Plan for the property.

Recommendation 2

The Management Plan should not only outline Objectives and Management Strategies, as contained in the Marine Management Plan, but also be action oriented with clear identification of activities, results and objectively verifiable indicators. The plan should also assign clear roles and responsibilities to the various implementation agencies and elaborate a time-frame for its implementation.

Recommendation 3

Complete the revision of the management plan for the property into one comprehensive site Management Plan, which should integrate all the other individual plans, including the Multiple Use Marine Management Plan. The site Management Plan should additionally deal with all key management issues, such as the management of Salmonids, Sikka Deer, key indicator species like Walleye Pollock, Stellar Seal Lion, Stellar Sea Eagle, etc and with ecotourism.

- (8) It is also important that the Marine Management Plan include clear targets and indicators for the conservation of the key indicator species, including Walleye Pollock and the Stellar Sea Lion. The Plan should also include a number of measures for ensuring the long term protection of fish species; such measures could include the identification of no take zones and adjustment to management practices to enhance fisheries conservation. It is important that the existing approach of identifying such measures in consultation with local fishermen continue, both to maximize the chance of such measures being successful and also to ensure that identified measures benefit, and are derived, from the knowledge and experience of local fishermen.

Recommendation 4

Consider identifying and designating locally relevant conservation zones, including no take zones, and practices within the marine habitat to ensure sustainable productivity of the marine biodiversity, including for sustainable production of

the fishery resource.

- (9) In relation to the management of key marine indicator species the Mission Team notes that fisheries resources are affected by activities which occur outside of the property, in particular from fisheries activities in the wider Sea of Okhotsk. This is reflected in fish stocks, where for example, the numbers of Walleye Pollock have been stable within the property for a number of years but have been generally declining throughout the Sea of Okhotsk. This requires action beyond the boundaries of the property and underlines the need for dialogue and consultation with relevant authorities and representatives of the fisheries sector from Russia to address the issue of declining stocks, such as the Walleye Pollock.

Recommendation 5

Continue the cooperation which has been initiated with the Russian Federation to find long-term solutions to resource use problems, particularly the unsustainable harvesting of the Walleye Pollock, and for regular exchange of scientific information.

- (10) The Mission notes the Stellar Sea Lion is an IUCN Red Listed Threatened species and its presence is an important component of the Outstanding Universal value (OUV) of the property. The Mission also notes there are conflicts with local fishers in relation to damage caused by stellar sea lions to fishing nets. Given the status of the Stellar Sea lion as a Threatened Species the Mission Team considers that the utmost effort must be made to protect the species in its natural range. This implies that efforts to avoid or minimize conflicts between stellar sea lions and fishers should be taken wherever possible. This could include measures such as the use of explosions to scare sea lions away and the use of strengthened or reinforced nets. Consumptive uses of the Stellar Sea Lion should not be encouraged.

Recommendation 6

Address the declining population trends of the two indicator species - Walleye Pollock and Stellar Sea Lion - through sound management interventions for their sustainable conservation within the property and through cooperative measures with relevant parties for areas outside the marine component of the property.

- (11) In summary the mission team supports the continuation and acceleration of efforts to protect fish species within the property and notes that this will involve a combination of measures. It is important that measures be developed in a cooperative manner with local fishers and that recommendations are based on the best science available.

3.2 Management of salmonids and dam construction within the property

- (12) The 2005 World Heritage Committee requested the State Party develop a Salmonid Management Plan to identify impacts of dams and strategies to address this impact on salmon species. This reflected the 2005 IUCN Evaluation Report which noted the nominated property has important values for salmonid species, including the Chum salmon, The Pink salmon, the Masu salmon and the Dolly Varden. These salmon species are an important food source for a number of important species within the property including the Stellar Sea Eagle and White Tailed Eagle which feed on salmon swimming upstream in winter. Thus, providing for the free movement of salmon species within the nominated property is an important element of the overall management of the property and a component of the area's Outstanding Universal Value. The mission team notes that it is also important to apply salmon management policies which lead to increased salmon escapement (i.e. allowing more fish to pass through the coastal fishery and enter rivers for spawning)
- (13) There are 44 streams in the Shiretoko World Heritage site and 14 of these have some form of artificial construction, mainly in the form of erosion control dams, concrete canals, and box culverts. Dams and associated structures on rivers have been constructed to provide mitigation against the effects of flooding or extreme weather events on people and structures, such as the town of Rausu downstream from the Rausu Stream and bridges in the lower Iwaubetsu Stream. These structures also pose a barrier to the free movement of salmon and the 2005 IUCN Evaluation report recommended a review of options for removal of some of these structures and the development of other measures, such as fish ladders, which could enhance the free movement of salmon within the property
- (14) The State Party established a River Construction Working Group after 2005 which reviewed structures on rivers and identified 13 structures which would be "reasonable to consider for modification as a matter of highest

priority". Following this the Working Group developed modification structures and began modification of seven (7) structures within rivers and streams in the property: 2 in Rusha, 3 in Iwauketsu, and 2 in Sashirui Stream.

- (15) The Mission noted with appreciation the measures taken to respond to the requests from the 2005 WH Committee in relation to modification of structures on rivers within the property. The Mission was able to inspect in the field the modification of dams on the Iwauketsu River and the positive impacts of this for salmon movement. The Mission Team notes that the modification of structures takes time and resources and that planning for such actions requires a longer term perspective. It is thus important to establish both short and long term goals for the management of salmon within the property.

Recommendation 7

Continue and accelerate measures to promote the free movement of salmon within the property and also to increase salmon escapement.

- (16) The Mission notes that the free movement of salmon is an important element of the OUV of the property and should be an integral element of overall management of the property. The mission also notes the particular importance of some rivers within the property for salmon, such as the Rusha River which has been identified by Salmon experts as the most important river for salmon conservation within the World Heritage property.

Recommendation 8

In the long-term perspective while continuing monitoring, give priority attention to the modification of structures on the Rusha River, given its importance for salmon species within the property.

- (17) The Mission notes the importance of rigorous and long term monitoring of the impacts of the modification of structures on salmon populations within the property. The Mission notes that there are currently programs in place to evaluate the effectiveness of the modifications in improving salmon runs and spawning habitats; this is based on inventories in relation to aspects such as the number of salmon migrating upstream and the velocity and discharge of streams. Monitoring should be used as a key element to guide the development of future strategies for salmon management.

Recommendation 9

Continue and accelerate monitoring efforts within the property, with particular attention to the impact of the modification of structures on the movement of salmon populations within and outside the property.

3.3 Management of Sika Deer

- (18) The 2005 IUCN Evaluation Report noted that the Sika deer is an abundant and high profile species at Shiretoko and that the deer population has been subject to major fluctuations. High deer densities within the property are affecting the native vegetation through overgrazing and control measures are clearly required. The debate centres on whether the effects of the deer are part of a natural process or are due to long term human imposed changes in the ecosystem.

Recommendation 10

Clear indicators should be developed to help define acceptable and unacceptable limits for the impact of grazing from Sika deer on natural vegetation in the property

- (19) Management of sika deer is guided by two key documents: (a) the Conservation and Management Plan for Sika Deer in Hokkaido; and (b) the Sika Deer Management Plan in the Shiretoko Peninsula. The plan for sika deer in Hokkaido aims to ensure a stable population level while reducing damage to agriculture and forestry activities. The plan for sika deer in the Shiretoko Peninsula aims to conserve the population of the sika deer within the context of conserving the ecosystems and biodiversity of the property as a whole. This management plan is also linked with an Action Plan which has included experimental density manipulation (culling) in the Shiretoko Cape Region.

Recommendation 11

Implementation of the Sika Deer Management Plan in the Shiretoko Peninsula, and the associated Action Plan should continue but the impacts of control measures on sika deer populations and the biodiversity and ecosystems of the property should be carefully monitored.

- (20) The Mission Team reviewed progress with the Sika Deer Management Plan in the Shiretoko Peninsula and noted efforts to define a reasonable population density for sika deer within the property. The Mission Team considers that the management of species in the core zone of the property should, as much as possible, be based on the principle of allowing natural process to occur without human intervention. However, the Mission Team also considers that measures to control the sika deer population should be undertaken when the deer grazing pressures are resulting in unacceptable impacts on the ecosystems and biodiversity of the property. There is potential for an irreversible negative impact of sika deer on the vegetation of the property if the situation is left to natural processes and no intervention is undertaken. The key challenge is to clearly define acceptable and unacceptable limits for these impacts, and also to ensure effective monitoring of the impacts of any control measures that are undertaken.

Recommendation 12

The management of sika deer within the World Heritage site should be carefully coordinated with the management of sika deer within Hokkaido in general.

Recommendation 13

Any control measures of deer populations in the property should be carefully, humanely and sensitively implemented.

3.4 Management of ecotourism

- (21) Tourism is an increasingly important issue within the nominated property. Summer is the high season for tourist use but an increasing number of tourists also visit the property in winter, particularly to view sea ice. The number of tourists increased immediately after the inscription of the property, reflecting increased media attention and interest within Japan.

Recommendation 14

Develop a consolidated ecotourism strategy for the property as quickly as possible. This strategy should be based on the protection of the natural values of the property, the promotion of high quality nature based experiences for visitors, and the promotion of local economic development.

- (22) Since the inscription there has been increasing emphasis on tourism planning and planning for “proper use” in general. “Proper use” has been guided by the “Basic Plan on the Proper Use of the Apical Region of the Peninsula Zone of the Shiretoko National Park”. This Plan sets out appropriate uses and policies, in relation to issues such as the management and maintenance of mountain trails and the regulation of boats to minimise impacts on seabird populations. The Mission Team notes the importance of building on and continuing the current approach to “proper use” and ecotourism.

Recommendation 15

Continue current activities in relation to “proper use” and “ecotourism” and consolidate them under one consolidated Working Group to ensure these matters are addressed in an integrated manner

- (23) There has been particular emphasis on ecotourism within the property and this has been guided by the Shiretoko Ecotourism Promotion Project, which is jointly supported by the Japan Ministry of the Environment, the Hokkaido Prefecture Government, and the Shari and Rausu Townships. The aims of this project include the development of appropriate ecotourism based on the natural features of Shiretoko and also using ecotourism as a tool for supporting the development and diversification of local economies. In particular there has been an emphasis on encouraging tourism as an element of diversifying the economy in Rausu and in “deepening the experience” at Shari, in particular by encouraging tourists to stay longer and in by developing a wider range of nature based tourism opportunities.
- (24) Emphasis is being placed on the development of local ecotourism industries which are sensitive to and protect the natural values of the property. Activities are underway in five specific areas: (1) the development of guidelines for Ecotourism specific to the Shiretoko World Heritage site; (2) collaboration with local industries, such as fishing and farming, to develop “hands on” tour programs adjacent to the property; (3) encouraging tourists to stay longer within the area, by working with travel agencies and by providing information to tourist regarding the variety of activities and options available; (4) training for tour guides, to improve skills and knowledge of nature guides; and (5) undertaking applied ecotourism research.
- (25) The Mission Team encourages the development of sensitive and appropriate ecotourism within and adjacent to

the Shiretoko World Heritage Site. The Mission considers the potential of such ecotourism to contribute to the strengthening and diversification of local economic development. It is the maintenance of natural features and values provide the basis for such development and accordingly such values must be enhanced and protected.

Recommendation 16

Ensure that the ecotourism strategy for Shiretoko is closely linked and integrated with regional strategies for tourism and economic development within Shiretoko.

3.5 Climate Change

- (26) The Outstanding Universal Value of Shiretoko is strongly related to the presence of sea ice at the lowest level in the Northern Hemisphere. This influences the productivity of the marine ecosystem which in turn influences the productivity and diversity of the terrestrial ecosystem. The impacts of long term climate change could have a significant impact on this property.
- (27) It is important that a Climate Change strategy be developed for Shiretoko, which could include: (a) development of a monitoring programme which identifies both long and short term impacts high of climate change and specifically monitors parameters such as the extent of sea ice and the impacts on populations of key indicators species; and (b) adaptive management strategies that could be applied to minimise any impacts of climate change on the values of the Shiretoko World Heritage site. The Mission Team notes there is an increasing body of experience and knowledge in relation to climate change as it relates to protected areas and natural World Heritage sites and this should be drawn on to inform and assist development of a climate change strategy for Shiretoko.

Recommendation 17

Develop a Climate Change Strategy for Shiretoko which includes: (a) development of a monitoring programme; and (b) adaptive management strategies to minimise any impacts of climate change on the values of the Shiretoko World Heritage site.

4. ASSESSMENT OF THE STATE OF CONSERVATION OF THE PROPERTY

- (28) The mission noted the good progress made by Japan in protecting the Shiretoko World Heritage Site and, in particular, addressing recommendations from the 2005 World Heritage Committee and the 2005 IUCN Evaluation Report. The mission was particularly impressed by the strong commitment of stakeholders at all levels to ensuring the Outstanding Universal Values of the property are maintained and passed intact to future generations. This is well reflected in the Shiretoko World Treasure Declaration signed by the Governor of Hokkaido and the Mayors of the two local towns, Shari and Rausu, in October 2005, which is attached as Annex C. The mission team also applauds the bottom up approach to management through the involvement of local communities and local stakeholders, and also the way in which scientific knowledge has been effectively applied to the management of the property through the overall scientific Committee and the specific Working Groups that have been set up. These provide an excellent model for the management of natural World Heritage Sites elsewhere.
- (29) Overall the Mission Team concludes that the State of Conservation is satisfactory. There are issues that need to be addressed, particularly in relation to marine management and salmonid management, and these are being worked on in a very constructive and effective way by the State Party. It is important that these efforts continue and accelerate. The long term effects of climate change are unclear but may be significant for this property. It is important that this issue be carefully monitored and that a strategy is developed to address and minimise future impacts of climate change.

5. SUMMARY OF RECOMMENDATIONS

The recommendations of the Mission Team are as follows:

Recommendation 1

Explore with the International Maritime Organisation (IMO) the obtaining of the Particularly Sensitive Sea Areas (PSSA) designation for the marine component of the property, with a view to giving it an added layer of protection.

Recommendation 2

The Management Plan should not only outline Objectives and Management Strategies, as contained in the Marine Management Plan, but also be action oriented with clear identification of activities, results and objectively verifiable indicators. The plan should also assign clear roles and responsibilities to the various implementation agencies and elaborate a time-frame for its implementation.

Recommendation 3

Complete the revision of the management plan for the property into one comprehensive site Management Plan, which should integrate all the other individual plans, including the Multiple Use Marine Management Plan. The site Management Plan should additionally deal with all key management issues, such as the management of Salmonids, Sikka Deer, key indicator species like Walleye Pollock, Stellar Seal Lion, Stellar Sea Eagle, etc and with ecotourism.

Recommendation 4

Consider identifying and designating locally relevant conservation zones, including no take zones, and practices within the marine habitat to ensure sustainable productivity of the marine biodiversity, including for sustainable production of the fishery resource.

Recommendation 5

Continue the cooperation which has been initiated with the Russian Federation to find long-term solutions to resource use problems, particularly the unsustainable harvesting of the Walleye Pollock, and for regular exchange of scientific information.

Recommendation 6

Address the declining population trends of the two indicator species - Walleye Pollock and Stellar Sea Lion - through sound management interventions for their sustainable conservation within the property and through cooperative measures with relevant parties for areas outside the marine component of the property.

Recommendation 7

Continue and accelerate measures to promote the free movement of salmon within the property and also to increase salmon escapement.

Recommendation 8

In the long-term perspective while continuing monitoring, give priority attention to the modification of structures on the Rusha River, given its importance for salmon species within the property.

Recommendation 9

Continue and accelerate monitoring efforts within the property, with particular attention to the impact of the modification of structures on the movement of salmon populations within and outside the property.

Recommendation 10

Clear indicators should be developed to help define acceptable and unacceptable limits for the impact of grazing from Sika deer on natural vegetation in the property

Recommendation 11

Implementation of the Sika Deer Management Plan in the Shiretoko Peninsula, and the associated Action Plan should continue but the impacts of control measures on sika deer populations and the biodiversity and ecosystems of the property should be carefully monitored.

Recommendation 12

The management of sika deer within the World Heritage site should be carefully coordinated with the management of sika deer within Hokkaido in general.

Recommendation 13

Any control measures of deer populations in the property should be carefully, humanely and sensitively implemented.

Recommendation 14

Develop a consolidated ecotourism strategy for the property as quickly as possible. This strategy should be based on the protection of the natural values of the property, the promotion of high quality nature based experiences for visitors, and the promotion of local economic development.

Recommendation 15

Continue current activities in relation to “proper use” and “ecotourism” and consolidate them under one consolidated Working Group to ensure these matters are addressed in an integrated manner

Recommendation 16

Ensure that the ecotourism strategy for Shiretoko is closely linked and integrated with regional strategies for tourism and economic development within Shiretoko.

Recommendation 17

Develop a Climate Change Strategy for Shiretoko which includes: (a) development of a monitoring programme; and (b) adaptive management strategies to minimise any impacts of climate change on the values of the Shiretoko World Heritage site.

Annex A - Decision of the 2005 WH Committee in relation to the Shiretoko National Park

Decision Text

The World Heritage Committee,

1. Having examined Documents WHC-05/29.COM/8B, WHC-05/29.COM/8B.Add 2 and WHC-05/29.COM/INF.8B.2,
2. Inscribes Shiretoko (Japan) on the World Heritage List on the basis of natural criteria (ii) and (iv):
Criterion (ii): Shiretoko provides an outstanding example of the interaction of marine and terrestrial ecosystems as well as extraordinary ecosystem productivity, largely influenced by the formation of seasonal sea ice at the lowest latitude in the northern hemisphere.
Criterion (iv): Shiretoko has particular importance for a number of marine and terrestrial species. These include a number of endangered and endemic species, such as the Blackiston's Fish owl and the plant species *Viola kitamiana*. The site is globally important for a number of salmonid species and for a number of marine mammals, including the Steller's Sea Lion and a number of cetacean species. The site has significance as a habitat for globally threatened sea birds and is a globally important area for migratory birds.
3. Notes that the State Party of Japan has agreed to extend the marine boundary of the property from 1 km to 3 km off the coastline, and that such extension is "de facto" in place awaiting legal designation by the end of 2005;
4. Requests the State Party to:
 - a) expedite development of a marine management plan, to be completed by 2008, to clearly identify measures for strengthening marine protection and the possibilities of extending the boundaries of the marine component of the property;
 - b) send a map and details of the final boundaries of the property, as well as a copy of the law supporting them, to the World Heritage Centre once they have been confirmed in law;
 - c) develop a salmonid management plan to identify impacts of dams and strategies to address this impact; and
 - d) address other management issues included in the evaluation report, in particular in relation to tourism management and scientific research;
5. Encourages the State Party to invite a mission to the property in two years from its inscription to assess progress with the implementation of the marine management plan and its effectiveness in protecting the marine resources of the property;
6. Congratulates the State Party for the commendable process of public consultation involved in the preparation of the nomination documents, the preparation of an excellent nomination dossier; and for effectively addressing IUCN's recommendations to enhance the conservation and management of this property.

Annex B - Agenda for the 2008 Mission and people met during the mission

February 18 (Monday)

Time	Schedule	Remarks
	Arrive at Narita Airport Arrive at Royal Park Shiodome Tower (Check in)	
18:00	Short Meeting at the Hotel	Explanation about the schedule of the evaluation mission Accommodation "Royal Park Shiodome Tower" 1-6-3 Higashishinbashi, Minato-ku, Tokyo 105-8333 Tel: + 81 (3) 6253-1111 http://www.rps-tower.co.jp/english/index.html

February 19 (Tuesday)

Time	Schedule	Remarks
9:00	Courtesy Call to Mr. Ichiro Kamoshita, Minister of the Environment	
9:15	Meeting with relevant officials	Agenda (1) Opening Address (2) Updating "State of conservation report on Shiretoko World Heritage Site" submitted before (3) Question and Answer
12:50	Depart from Haneda Airport (JAL1147)	
14:25	Arrive at Kushiro Airport	
18:50	Small reception hosted by Hokkaido government, Shari town and Rausu town	Accommodation "Rausu Daiichi Hotel" 1 Yu-no-sawa, Rausu-machi, Shari-gun, Hokkaido Tel: +81-0153872259

February 20 (Wednesday)

Time	Schedule	Remarks
10:00	Opinion exchange meeting about the Multiple Use Integrated Marine Management Plan	Agenda (1) Opening of the meeting (2) Introduction of participants (3) Briefing 1. Background to the development of the Multiple Use Integrated Marine Management Plan for Shiretoko World Natural Site 2. Outline of the Multiple Use Integrated Marine Management Plan for Shiretoko World Natural Site 3. Institutional features of coastal fisheries management in Japan 4. On the autonomous management of walleye pollock fishing (4) Exchange of views
13:00	Inspection at the fishing port in Rausu	
13:30	Inspection around the town area of Rausu to observe eagles	
14:00	Inspection at the Rausu Visitor Center	

17:30	Arrive at Utoro and Shiretoko Daiichi Hotel (Check in)	Accommodation "Shireoko Daiichi Hotel" 306 Utoro onsen, Shari-cho, Sharigun, Hokkaido Tel: +81-01522-4-2334
-------	--	---

February 21 (Thursday)

Time	Schedule	Remarks
9:00	Briefing and Discussion on Activities after Inscription	Agenda 1. Opening of the meeting 2. Briefing and Discussion 1. Assessment and modification of the River construction 2. Proper management of Sika Deer in Shiretoko 3. Discussion towards the Proper Use of Shiretoko 4. Ecotourism Promotion in Shiretoko
13:30	Inspection at Iwaubetsu river moving to Akai river	
14:30	Inspection at Furepe Fall by snow hiking	
18:00	Discussion with related local organizations	Accommodation "Shireoko Daiichi Hotel" 306 Utoro onsen, Shari-cho, Sharigun, Hokkaido Tel: +81-01522-4-2334

February 22 (Friday)

Time	Schedule	Remarks
9:00	Briefing on Process after Inscription of Shiretoko World Heritage Site	Agenda 1. Opening of the Meeting 2. Briefing on the state of Activity 3. Exchange of views
11:00	Press conference (-11:30)	
15:15	Depart from Memambetsu Airport (JAL1186)	
17:05	Arrive at Haneda Airport	
18:00	Meeting with relevant officials	
19:00	Dinner party hosted by Mr. Yasuyoshi Sakurai, Director-General, Nature Conservation Bureau and Mr Hisao Harihara, Director General, Private Forest Department	Accommodation "Hotel Pacific Tokyo" 1-6-3 Higashishinbashi, Minato-ku, Tokyo 108-8567 Tel: + 81 (3)3445-6711 http://www.pacific-tokyo.com/

Annex C - Shiretoko World Treasure Declaration signed by the Governor of Hokkaido and the Mayors of Shari and Rausu, in October 2005

October 30, 2005

Shiretoko is now recognized as one of the world natural heritages, with its unique biodiversity and ecosystem in both the land and the sea.

The Shiretoko coastline is the southernmost point that drift ice reaches in the northern hemisphere. The subtle ecosystem which spreads from the sea to the land supports various animals and vegetation, and is also a breeding place for an important internationally recognized rare species such as the Steller's sea eagle, and the white tailed sea eagle among others. Abundant marine life resources are carried to the forests by fish travelling up the rivers which helps sustain local animals like the brown bear. Many varieties of creatures have been flourishing in the natural environment of this great land, Shiretoko, since ancient days.

In order to responsibly hand down this world natural heritage to the next generation as a priceless asset of mankind, we, in unity together with the citizens of Hokkaido, hereby vow to make every effort towards proper use and conservation of this priceless world treasure, Shiretoko. At the same time, we will maintain the wisdom and skills that the region's ancestors, the Ainu, have passed on through the generations as well as conserve the valuable history and remember what the land has provided us.

Harumi Takahashi
Governor of Hokkaido

Sakae Gorai
Mayor of Shar Town

Kimio Waki
Mayor of Rausu Town"

Annex D – Photographs



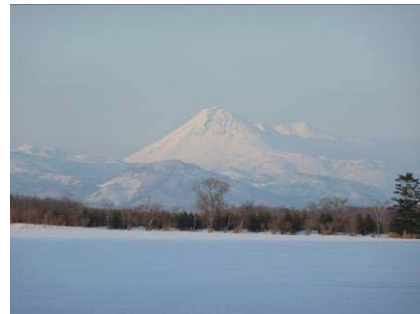
View of Rausu Port



Walleye Pollock



White-tailed Sea Eagle



View of the Mt. Rausu in Shiretoko



Modified dam on Iwabetsu River



Unmodified dam on Iwabetsu River



Sea-ice formation off Shari Town



Meeting with local stakeholders